

1 報告事項

(1) 前回意見の対応状況

(2) ネーミングライツについて

(3) 使用料の見直しについて

<事務局から説明>

【会長】

ネーミングライツについて、使用するにあたりどういう条件があるのか。市立図書館に電話すると、「不動技研ながさき市立図書館です。」と言われ、間違って電話したかと思ったという話を利用者の方から聞いた。ネーミングライツを利用するにあたっての条件は、他にどのようなものがあるのか。

【事務局】

ネーミングライツはあくまで愛称で、正式名称が長崎市立図書館というのはそのまま。企業から愛称付与の対価をいただいているので、電話対応、図書館だより、広報ながさきなどの一般的に皆様に周知する時は愛称を使う。条例改正などの議案を議会にあげる時などは正式名称を使う。

【会長】

ネーミングライツを使用するにあたって、使用条件は、業者との話し合いで決められたのか。

【事務局】

業者としても、社名を一般市民の方に知っていただきたいという思いで愛称をつけているという部分があるので、基本的にはこの5年間は愛称を使って市民の方には対応するという事で、公募の時点や契約の中で決めている。

【会長】

長崎市でネーミングライツを使用している施設はどのような所があるか。

【事務局】

長崎市が導入している施設は、恐竜博物館、柿泊にある総合運動公園、ブリックホールの3施設が同じ業者で日本ベネックス。それと柿泊の総合運動公園内の野球場。こちらはサンホールディングスという会社である。これらは令和6年4月1日からの5年間の契約になっている。

【会長】

使用料の見直しに関して、使用料は施設ごとに決まっているのか。それとも基準があるのか。

【事務局】

使用料は施設ごとにコストが違うので、コストにあてはめて計算している。ただし公民館やふれあいセンターなどの用途が同じ施設については、部屋の面積に応じて統一料金で調整している。

【会長】

使用料は実際にはどういうことに使用されるのか。

【事務局】

使用料は市の歳入として受け入れて、歳出の財源に充てる。ただし指定管理者制度を導入している施設については、使用料は利用料金収入ということで、指定管理者の収入になる。利用料金収入と市からの委託料を合わせたところで、図書館の管理運営を行っていただいている。

【会長】

前回話題にあがったV・ファーレンとの協力は進んでいるか。

【事務局】

4月1日から市に官民連携推進室という、ジャパネットを含めていろいろな民間企業と連携していくための専門の窓口ができた。4月に、連携事業をするのであればこういう事業をしたいと申し入れたが、先方の都合と市の事業の都合で上半期にかみ合うところが無かった。調整をしているところで、今の段階ではいつ頃できるというのも目途がついていない状況である。

【会長】

期待している。V・ファーレンとヴェルカも可能性があるのかと思っている。

【事務局】

前回ご提案をいただいたその二つでできればと思っているが、そこに限定するのではなく、図書に興味を持ってもらうということが主眼なので、他にチャンスがあれば話をしていきたい。

【会長】

北海道でも新しくできたスタジアムと、近くの公共図書館の連携の報告も出ている。連携があるといういろいろな分野で記事に取り上げられたりする。スポーツ産業の専門紙もあるので、そこで長崎も頑張っていると、よその地域からも見られるのではないかと思う。

2 議事

(1)事業実績について

ア 蔵書・利用状況

イ 事業実績(令和7年2月～令和7年6月)

ウ 市民からの要望など(令和7年2月～令和7年6月)

<指定管理者から説明>

【委員】

点字ブロックの件、ペースメーカーのためICゲートを通れない件について、口頭案内以外に根本的な対策を打つ必要はないのか。設備的なことや、案内表示をわかりやすくする、利用ガイドを配るとか。ホームページの利用年齢層を見ると60歳以上が45%近くいる中で、これからこういう特定用途がでてくるのかなと思う。どうお考えか聞きたい。

【指定管理者】

わかりやすい表示や、お配りできるようなものの準備は無いので、そういう方が来られた時に都度対応するような状況である。おっしゃるように、先回りして準備しておくことも必要かと思う。ただ点字ブロックの件は、目の不自由な方に対して表示や配布物では機能しないため、どのようなご案内をしていけばよいのか、というのも難しい点である。何か方法を検討していきたい。

【委員】

当事者団体の方とか専門職の方々から意見を聞くなどの方法があると思う。

【委員】

点字ブロックは視覚障害者の団体などが長崎市にはあるので、そういう所との意見交換の必要はあると思う。ICゲートについてはペースメーカーを入れている方は表面上わかりづらい。内部障害は他にもたくさんある。長崎市には心身障害者団体連合会があるので、そちらと協議されたら何かヒントがあるかもしれない。

【委員】

今回の資料を読んで嬉しかったのは、市民からの要望に肯定的なご意見を載せられていたこと。今まで

敢えて載せていなかったのか、意見がなかったのかわからないが。こういうことはもっと進めて、図書館の価値を高めるために伝えることが重要。業務改善のフィードバックにも使える。SNSなどで図書館のいい話のような形で公開していけば、図書館の価値が伝わると思う。

【指定管理者】

前回の協議会で、よいご意見も来ているのだったらぜひ載せるようにとのお話があったので、今回載せさせていただいた。ご意見というと要望や否定的なものが多い中で、こういうご意見はスタッフの励みにもなるし、図書館の印象が上がるという面もあると思う。どういう形がいいのか、今回のご意見を参考に考えたい。

【委員】

すごくいいなと思ったのは、相互貸借がよかったですとか、リサイクルも価値があるとか、東京からの旅行者の方が原爆関係の資料をすんなり見せていただいたとか、オペレーションを含め、情報がきちんと出せることなどを、具体的に褒めている。公表して悪いことはない。公表すべきこと。SNSで市民の感じ方もフィードバックされて、幅広く意見も聞けるのではないかなと思う。

【会長】

資料4の蔵書・利用状況等について、貸出点数が少なくなっているというデータがでていますが、説明を聞いて、DVDを見ないとCDを聞かないというような、日本の今の状況が図書館に反映していることがわかった。数値だけ見ると貸出が少なくなっているという印象を持たれるが、社会状況も変わってきているので、そういう説明が統計を出す時には必要だと思う。数値だけではわからない状況で、実際は電子書籍の貸出が増えている。長崎市立図書館だけでなく、全国的にどこの図書館でも見られる状況だと推測する。そういう社会状況を含めた説明が必要なのかなと感じた。

市民からの要望で、日々のご苦勞を感じるが、スタッフ用の対応マニュアルを作って全スタッフで把握されているのか。いろいろな方が来やすい場所なので、ここに挙げられないような、カウンターで大声で話すとか、叱咤するなどの困ったこともあるかなと思うが。

【指定管理者】

ケースバイケースのことが多いので、一般的なこと、例えば複数名で対応するとか、場合によって場所を移動するとか、警備員に同席してもらうなどの、いろいろなケースに共通することのマニュアルは持っているが、いただくご意見も様々なので、どうしてもその時その時の対応になってしまう場面も多い。その中でもよく聞かれるような事とか、利用者の方が疑問に感じられるようなことについては、マニュアルというほどではないが、説明の仕方の工夫、どうすれば誤解なくわかりやすく伝わるかという方法については共有するようにしている。

【会長】

公共の施設の中で一番多様な人が集まる場所だと思うので、いいこともあるが困ったことも多いと想像する。特に女性がいると高圧的になる人もいるので、若いスタッフだとそういったことで心が折れてしまったりする。心のケアも必要になるかなと思う。

【委員】

前職でホールのお客様が来る所にいたが、シニアスタッフを置いていた。常駐は難しいが、お客様の男女や年齢層の傾向を見てシニアスタッフに来ていただくようにしていた。シニアの方への対応は、言っている内容どうこうではなく、同年代の方から諭されると納得するところもある。図書館も利用者の年齢層が高いので、ボランティアも活用して対応できればいいのではないかなと思う。

【委員】

市民からの要望を見ると、ふれあいセンターも同様なことがあるので、いつも同じ気持ちになって大変だなと思う。最近増えているのは、一部の高齢男性で高圧的な態度をとる方がいて職員が苦勞している。職員がベテランなので上手に対応しているが、職員で対応ができない場合は、最終的に所長が対応する。話を聞いて理不尽なことを言われたら、はっきりとそれはできないと断るようにしている。それで来なくなった人も何人かいるので、それでいいのか難しいところではあるが、時には毅然とした態度で臨むことも必要と思って対応している。

【委員】

私は図書館の研修室を仲間と使っているのだが、バスが廃止されて来なくなったという人がいる。バスが非常に不便になっている中で、例えば貸出の時に重いものが持てなくなっても、図書館を利用したいという利用者に対して、少し費用がかかるかもわからないが、高齢の方が借りやすくなるようなサービスを増やして行って、地域の公民館などでも、貼り紙などで周知するといい。申し込んだら届きますといった、巡回配送システムのような形。費用がかかるのでどこからそれを捻出するかというのは気になるが、今後ますます年齢が高くなり、もっと不便になると予測されるので、新しい高齢者向けのサービスを作ると、貸出点数もある程度維持できると思う。

【事務局】

本を図書館まで借りに来るのが大変というのは、ご高齢になると免許を返納する方も出てくるのであると思う。長崎市の場合は他都市と違う特徴として、各地域にある公民館やふれあいセンターなどの市立図書館から離れた場所であっても、本の予約をしたものの受取りや返却をすることができるという対応を現状でもしている。そのあたりを知らない人も当然いらっしゃると思うので、身近なところで借りられるということを知っていただくよう周知に努めたい。

【委員】

今話したのは、予約ではなく、買い物や通院のついでに図書館に来て、これが借りたいと選んだ本を届けという仕組みをつけ加えること。今後ご検討いただけたら、例えば80歳、90歳になっても借りやすいかなという気がする。

【会長】

ふれあいセンターで取寄せができるという周知はされているか。

【委員】

ご存知の方は、市立図書館にある本をふれあいセンターで借りたり、逆に市立図書館で借りた本をふれあいセンターで返したりと上手に利用されている。確かに知らない方がいらっしゃるって、それを知った時に初めてそんなことができるのかと喜ばれている。ふれあいセンターは市内に30か所くらいある。そのあたりの発信を、市立図書館だけに任せるのではなく、連携して知らせていく必要があると思う。

ただ、そこから先が、ふれあいセンターまでは来てもらわないといけない。そこで問題となってくるのが駐車場。基本、地域から歩いて来ることをベースに建てられているので駐車場が狭い。多くのふれあいセンターは研修室を設けていて、研修室の利用者が優先される。図書室の利用者の分は1台は確保している。空いていたら他の場所にも停めていいが、空いていない場合は停められない。近くの県営アパートの駐車場など、空いている駐車場を利用できればいいと思うが、解決がむずかしい。

(2)令和6年度モニタリング状況について

<事務局から説明>

【委員】

公式ラインの運用が開始されて1年近くになる。他にSNSはXとインスタグラムをされているが、現状のフォロワー数をどう見ているか。これを増やしていく段階的な目標値があるかお聞きしたい。駐車場の件とかいろいろなことを周知することが必要なので重要だと思う。

【指定管理者】

毎月の増減数の資料が今手元にないので大体で言うと、ラインは1,000に満たない。インスタグラムが2,000を超えていて、次は3,000を目指している。Xは増えていない。ラインはもうすぐ登録者数が1,000になるが、あまり増えすぎると料金プランのこともあり、ひと月の配信数が減ってしまう。今は月5回配信できているが、2,000になると月に2回しか配信できない。多くなりすぎるとプランの料金が高くなるので、現状の1,000ぐらいでいいと考えている。

【委員】

貸出利用者が年間33万人いる中で2,000人、3,000人はどうなのか。33万人が分母になって2,000人が分子かと思うと厳しいなと思った。逆に言うと、この数字が上がることでいろいろな理解不足が補える気がする。

(3)長崎市子ども読書活動推進計画について

<事務局から説明>

【委員】

計画が5年計画で来年が最後の年ということだが、この活動で現場がこういうふうになった、子どもたちがこういうふうに変った、こういう活動が立ち上がったなどのことはあるか。5年間の取組みによって上位の目的はこういう形になったということでもいいが。

【委員】

数値目標の最後に、読み聞かせ講座を開催してボランティアの養成を図るとある。私もボランティアを30数年やっているが、仲間が年々高齢化していて若い人が少ない。次の世代に引き継いでほしいと思っている。山里地区子育て支援センターで若いお母さんたちに声をかけて、おはなし会のグループを作りそろそろ1年になる。子どもさんが2から3歳なので、お母さんがお膝に抱いたまま読み聞かせをしている。図書館の講座は受けていないが、たまたま保育士さんや幼稚園の先生だった方が集まったので、指導はせず一緒にやっている。若いお母さんたちが選ぶ本は私たちと少し違うし、見ている人も身近に感じてくれて、私も読んでみたいですよという方もあった。裾野の広がりにはそういう所もよかったかなと思う。図書館の講座だけではなく、身近な所で子どもたちに読む楽しさを体験してもらいたいと思って、みんなで勉強しながらやっている。

【会長】

ボランティアが減少しているという数値からだけでは、今のお話いただいたようなことはなかなかかわからない。

【委員】

子どもたちは、ユーチューブなどの動画を見ることが多くなっている。私自身も本を読んでほしいという気持ちがすごくあるが、機会が無い。ご家庭でされている方もあるだろうが、おはなし会をしていただいて絵本って楽しいと思うのが一番いい。5歳と3年生の子どもがいるが、小さい時は読み聞かせでよかったが、字が読めるようになったら自分で読んでほしいので、上の年齢になった時に、自分で本を選んで読む機会がたくさんあったらと思う。

以前、幼稚園に民間の移動図書館に来ていただいたことがあった。トラックの中にたくさんの本があって、

読み聞かせもその中から選んでしてくれるが、自分たちで好きな本を選んで、みんなで広場みたいな所で読んで、という機会があったのがすごくよかった。先ほど高齢の方がなかなか図書館に足を運ばないという話があったが、今は移動コンビニなどが、買い物に行けない高齢者のためにあり、自分で選ぶのが楽しいと言われていた。ご意見には「本を自分で選ぶのが好きだから」と書いてあったので、移動図書館みたいなものがあれば、子どもたちにもいいが、高齢の方にもいいのかなと思った。

また、幼稚園や学校に読まなくなった本の寄贈をしていただいているのが、すごくありがたいと思っている。

【会長】

重要なポイントを言っていた。長崎県立図書館には移動図書館が無い。

【事務局】

移動図書館は合併する前に外海の方にあったようだ。また長与町には移動図書館があるかと思うが、長崎市では図書館を整備して、ネットワークで各地区で身近なところで借りられるというスタイルで取り組んでいる。現状としてはネットワークでつながっていて身近なところで借りられるということで、今のところ移動図書館は考えていない。

【会長】

通常の公共図書館が運営している、移動図書館が定期的に2週間に一度同じ場所に行く、という形ではなく、年に何回か学校や幼稚園に行って、子どもたちに本を選ばせる。市立図書館の本を持って行って返却は地域のふれあいセンターにとか、拠点がいっぱいあるのでそういう形を長崎市独自でできるのではないかと思う。高齢者の身近な場所にふれあいセンターがあるが、それでもちょっと行きにくい所に移動図書館が行くというのも一つの方法。

【委員】

以前、新上五島町の学校に勤めていた時の話だが、移動図書館は子どもたちはとても喜ぶ。昼休みの時間に来てもらって、給食を食べ終わった子から移動図書館に行って喜んで借りていた。小さな島だから毎週来てもらうこともできた。次の週に来た時に返したり、地域の図書館に返すこともできた。ただ長崎市のような大きな所でできるのかというと、難しいところはあるだろうと思う。可能であればいいかなと思う。

合わせて、学校の方で何が変わったかというところを話すと、先ほどから出ている図書ボランティアが減った、高齢化したというのはあって、お母さんたちも忙しくなっている部分もあるのだろうと思う。良くなったことでいうと教育委員会に頑張ってもらって、学校司書が2校に1人つくようになった。司書が学校にいるようになったのは大きく、学校図書館が充実しつつある。ただ学校は勉強もしないといけない。学習をしないといけない中で時間を作るのがむずかしい。今後子どもたちの読書量を増やしていくことが大事だが、子どもたちは家に帰ってスマホなどにかかる時間が5時間ぐらいに増えて、宿題をする時間も減っている。家庭での読書量を増やすことはすごく大事じゃないかと思う。そのことを保護者の方に呼びかけていく手段がないかと思っている。テトル(保護者向けの連絡ツール)を使って教育委員会からも発信できるので、もっと本の事を発信してもらえないかと思っている。本に関する情報をたくさん発信することで、まず保護者が見て、子どもたちに保護者が勧めることで家庭読書の推進ができるのではないか。

【事務局】

今まで保護者へ教育委員会から一斉に周知をしたい時は、学校ごとにチラシの配布のお願いをしていた。テトルを使うと、教育委員会から各保護者へ直接送れるし、各学校からも送れるように整備されている。そういったもので周知をすると、保護者に本に関する情報が伝わる。家庭での読書は大事だと保護者に伝われば、読書量も増えてくるのではないかと思うのでいいアイデアだと思う。

【委員】

図書館のいろいろな行事についても、テトルを使ってどんどん発信していただければと思う。

【事務局】

いい手法の一つだと思う。市の方で考えるべきことなので、図書館にご協力をいただきながら催しものの案内を作っていくように話をしていければいいのかなと思う。

先ほどお話があった計画の総括について、今期の計画は令和8年度末までなので、次回作るにあたって今の計画がどういう効果をもたらしたのかという総括をし、足りないものは何だったのか、うまくいっているものは何なのかを精査して、次の計画に行かなければいけないと思う。1か月の読書量が増えているなど明確な数値があると効果の実感があるが、数字を見たところ、年によって増えたり減ったりばらつきがある。今の時点で明確な効果が総括できているという状況ではない。次期計画を策定するまでにいろいろな情報を集めて、まとめる必要がある。計画を持っている市側の課題として取り組ませていただきたい。

【委員】

学校司書が増えたという話もあるが、学校現場は人手不足で教員も足りないし、実は私の勤務する学校には司書が配置されていない。市内の中学校でも2～3校は配置されていない学校がある。ボランティアもなかなかいないし、中学生は学校の中でも忙しく、家に帰ってからも忙しく、なかなか読書の時間がとれない。本校だけでなくどの学校でも同じだと思うが、子どもたちは8時15分からは正式な教育活動開始の時間。その前の8時5分から15分まで、子どもたちが登校して最初の教育活動が始まるまでの空いている時間に、自分たちでそれぞれ10分間読書をしなさいということになっている。昔は朝登校したら必ず10分間読書の時間が設けられていたが、働き方改革などいろいろなことが入ってきて、今はその時間は先生方は勤務時間外になる。

以前と比べると、中学校では教育活動の中から読書活動というのがどんどん削られているという実感があるので、今回の資料を見て中学生の読書量が減っているのも申し訳ないと思った。読書が大事だというのはどの先生方もわかっている。本を読んでいる子はいるが、固定化しているというのが現実で、広く誰でも読むようにするにはどうしたらいいのかと、皆さんの話を聞きながら考えていた。宿題として考えていきたい。

【委員】

2年3年5年というスパンで未来を考えた時、非対面というのも実験として取り組みに入れていいのではないかという気がした。ご意見はいっぱいあると思う。私もどちらかというと、昔の人間なので非対面というのはどうかなという思いはあるが、アイデアとして受け取っていただければと思う。

【委員】

私はいつもお父さんお母さんに会って「絵本は心の栄養です」と言っている。赤ちゃんが生まれた時から親御さんたちにそのことをしっかりと伝えたい。本を読んでください、本を与えてください、子どもたちが大きくなるうちに心が成長して、豊かな子どもになっていく、ということを赤ちゃんが生まれた時点で宣伝したり知らせたいと思う。今はお母さんもスマホを見ていたりして本に触らない人がいる。すると子どももそうなる。絵本がどんなに成長に大事かということを、しっかり若いお母さんやお父さんに知らせたい。どうやって知らせたらいいかわからないが。

【委員】

今はみんなスマホばかり見ている。子どもも見ている。ウェブで読み聞かせがあれば、いいのかなと思う。世の中そういうふう動いて来ているのでここも避けては通れない。段階的に目標を立てて進めたら面白いのかなと思った。

【委員】

いろいろな意味で保護者への発信が大事だと思う。もう一つ、先ほど事務局からの説明で放課後デイサービスの話が出ていたが、学童がある。今私が勤務している学校でも6〜7割ぐらいの児童が学童に行っている。そこで何をやっているかという、宿題をして後は自由に過ごして遊んだりしている。そこに本があれば、学童の中で本を読む時間を作れないか。学校から学童にはなかなか働きかけができないので、市全体で学童に働きかけをしていくのはどうかなと思う。

【委員】

私も子どもを学童にやっていて、漫画本は家庭からの寄付などで置いてある。幼稚園などに読まなくなった本などを寄贈されるのを、学童に回してもらえたらいいのかなと思っていた。夏休みは特に、遊ぶ時間に読んで貰ったらすごく助かる。

【会長】

学童にアルバイトで行っている学生がいる。何をやっているのと聞いたら、遊んだりゲームしたり絵本を読んだりしていると言っているの、本や絵本が学童にあったら読ませると思う。

【委員】

子どもたちもあったら読む。

【事務局】

学童にも本の譲渡会のご案内はしている。それを利用して持ち帰っていただいている学童もある。

【委員】

学童の先生の考え方によって変わってくる。譲渡会に必ず来てもらうとかもっと積極的な進め方ができないかなと感じている。

【会長】

ブックスタートで前年よりも絵本の引取りに来る人が少なくなった、というのは事業としてどうなのか。他の自治体がやっているように保健センターなどでお渡しするよう、全体的な見直しが必要なのかなと思った。

また、学校司書の人材確保がむずかしいということだが、時給を上げたら来てくれると思う。学校司書として働きたいという人はいるので、できれば1校に1人の配置を。忙しくてもそこに先生ではない大人の人がいて、読書を通していろいろなことを相談できることがすごく大きい。司書の資格を持っている人はいっぱいいるので、お金が解決すれば人はいる。

【事務局】

学校司書の充実ということは、やっていきたいという気持ちはある。学校司書の数を2校に1人配置しているが、お金の面では精いっぱいのところが現状であるので、ご理解いただきたい。

【委員】

今年度は学校司書が夏休みも週2日いて下さるので、すごく助かっている。蔵書点検もしていただいている。

【会長】

全体を通しての意見などないか。

【委員】

先日まで原爆写真展をやっていて、最後にアンケートを書いた。今はアンケートをQRコードでやるところも多いが、そういうのはやらないのか。さっきラインの維持費のことがあったが、公式ラインはアンケートフ

フォームが中にあったりする。アンケートをスマホでやるというのは割と一般化しているので、意見が集まりやすいと思う。いろいろな催し物があるが、スマホを利用するとアンケートの敷居が下がるのではないか。ラインは自動応答もあるので、そういうものも利用されると、例えば繰り返し駐車料金高いですよと言われてなくても済む。キーワードで駐車場とかいくつか入れると、自動応答で定型回答をしてくれるので、負担が下がると思う。

【会長】

他に意見がなければ、これをもって令和7年度第1回長崎市図書館運営協議会を終了する。